



執筆者

縣 智香子

あがた ちかこ

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
統合臨床感染症学分野 特任研究員

産業医科大学産業保健学部看護学科卒業。都内の病院に就職後、2007年感染管理認定看護師取得、院内の感染管理に従事した。新型コロナウイルス感染症流行時は東京都看護協会新型コロナウイルス感染症対策プロジェクトアドバイザーとして活動。2022年4月より現職。国立看護大学校研究課程部感染管理看護学在学中。

文化活動継続の支援

音楽活動における感染対策

医療を受ける過程で、もともとこの病気とは別に罹患する感染症を医療関連感染といます。私は、医療関連感染リスクを減らし、患者さんが安全に治療を受けられるような方法を知りたいと思ったのがきっかけで、感染管理認定看護師の資格を取得しました。

感染管理認定看護師には、施設内で医療関連感染の予防と管理を推進させる役割があり、私はこれまで病院内の感染対策の仕組み作り、感染症の発生状況の監視(サーベイランス)と対策立案、スタッフ教育などに携わってきました。

2020年1月の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行開始時、私は大学院進学準備のため病院の現場業

務から離れていました。とはいえ、この非常事態において、感染管理認定看護師としてできることは貢献しようという思いで、東京都看護協会のCOVID-19対策プロジェクトに参加しました。国内外で日々更新されるレポート・通知等から情報収集し、感染対策に関するオンライン研修会開催、クラスター施設への訪問と感染対策に関する助言、プロジェクトに寄せられた質問対応などを行いました。感染管理認定看護師が在籍しない施設を中心に、感染対策の支援ができればと考えておりました。

そのような相談を受けているうちに、クラシック音楽関係者(オーケストラ・オペラ・児童合唱・音楽大学など)からお声がけをいただきました。演奏活動・コンサートに伴う感染リスクの評価および感染対策の相談です。クラシック音楽に限りませんが、当時、各種舞台芸術・エンターテインメントは活動ができない状況でした。文化活動の継続、プロの音楽家の活動継続のため、支援が必要でした。私はアマチュアオーケストラでコントラバスを弾くのが昔からの趣味で、個人的にも音楽は必要不可欠な存在です。適切な感染対策があれば音楽活動も継続できると思い、支援しました。

病院で行っていた感染管理と同様に、オーケストラや合唱団の練習場、コンサートホールなど音楽家が活動する現場を訪問し、音楽家や合唱メンバーの行動を観察し、どのような場所・場面に感染リスクがあるかを確認し、対策を立案しま

した。対策はなるべく具体的なものにし、ました。

「手洗い・手指消毒が必要とされる場面・状況」「部屋の換気状態の確認・換気が不十分な場合の工夫」「演奏都合でマスクが着用できない場合の人と人の間の距離」「体調管理」等、また、児童合唱では「合宿練習を行う場合の対応」「ご家族への対策に関する説明や連絡体制」などを提案しました。

テレビ・SNS等で感染対策の情報はあふれていました。しかし、それぞれの現場・状況でどのように適応されるべきか、専門家としての助言が望まれていました。対象が医療現場ではないため、対策を伝えることやコミュニケーションに苦労することも多々ありました。とはいえ、伝わりないと嘆いてあきらめるのではなく、現場で粘り強く伝える努力をすることが支援となり、社会全体での感染対策実現につながるのではないかと考えていました。

◆ ◆ ◆
今年5月にCOVID-19は5類感染症に移行され、それまで行っていたさまざまな対策が解除されました。感染対策は流行状況やリスクに合わせて行うものなので、状況に合わせて見直し、最適化することが大切です。そして対策を解除しても、これまでやってきたことが間違っていた/無駄になってしまふ、というわけではありません。これまで私たちが工夫して行ってきた感染対策は、COVID-19のみならず他の感染症が流行した場合の備えになるからです。